

2015年度海外臨床実習引き継ぎ書(マレーシア・UNIMAS)

【実習期間】 2016年2月15日~3月4日

【実習受け入れ先】 マレーシア・University Malaysia Sarawak

【実習機関】 Sarawak General Hospital その他外部機関

【実習診療科】

1月に一人、2月に3人が参加した。選択診療科は以下の通り。一日だけ病院実習に混ぜてもらっても交渉次第では可能

Public Health & Community Medicine

Surgery

Internal Medicine & Public Health

【実習開始まで】

- ・ IELTS 受験、UNIMAS の先生とのメールでのやり取り、現地情報チェック
- ・ A 型肝炎ワクチンは阪大の保健センターで接種可能。確か一回 8000 円ほどで、期間を開けて二回打ちする。
- ・ 現地空港到着後は、大学の職員の方が車で寮まで送迎してくださった。

【実習の内容】

選択診療科によって大きく変わってくるが、大まかに以下の通り。

- ・ 公衆衛生学・外科講義への参加
- ・ 病院での Bed Side Teaching への参加
- ・ 各種施設見学(メインキャンパスや医療機関など)

公衆衛生学の場合、先生方の車に乗せていただいて、医療機関などを訪問する。場合によっては地方の診療所で泊まらせていただくこともある。4年生向けの講義や実習に参加させてもらうことも多い。デング熱ウイルスを媒介する蚊を駆除するためのフォギングもタイミングが良ければ参加できる。予防接種やチャイルドヘルスなどマレーシアと日本の医療システムを理解するには絶好の機会である。一方的にならないよう、積極的に質問することが大切。最終レポートを提出するにあたり、毎週金曜日に日々の実習で学んだことを分野別にまとめて担当の先生にプレゼンし、フィードバックをいただく機会もある。担当の先生は現地の学生にも慕われているほどの人格者であり、お話をさせていただく中でも学びが多い。公衆衛生学での実習は協定校としては本校だけなので、おすすめである。

内科の実習は UNIMAS の最終学年(5 年生)のプログラムに参加させてもらい、大学付属病院と近所の外病院で行われる。実習時間は午前が 9 時から 12 時、午後が 1 時半から 4 時であることが多い。実習内容は内科全般で、日によって科は異なるが、どの科でも身体診察に重きを置いており、毎日実際の患者さんを相手に身体診察実習を行えるため非常に勉強になる。身体診察実習の他に講義やケーススタディ、症例報告会、外来見学など見学できる。午前大学、午後外病院で実習することも多いが、同じグループの学生に昼御飯や外病院に連れて行ってもらえる。基本的に学生と一緒に行動するので触れあう時間が長く、仲良くなれるのも良いところだと感じた。

外科の実習も内科とほぼ同様である。ベッドサイドティーチングのほか、手術見学も行う。最終学年との交流も多い。

【特記すべき実習に必要なもの】

- ・電子辞書があると便利。公衆衛生学実習では白衣は不要だが、病院実習に参加を希望する場合には必要。
- ・名札を英語表記にしておくとう挨拶が円滑に進む。
- ・日よけに加え、蚊などの虫対策は必須。
- ・基本的に英語が堪能な国ではあるが、マレー語会話帳はとても重宝する。
- ・日常生活に必要なものは、徒歩 5 分のスーパーでほぼ調達可能。洗濯ネットや大きな袋も持参すると何かと重宝する。洗濯物干しはあると便利(こちらは現地調達可能)
- ・安価な携帯電話も徒歩 7 分の施設で購入可能。先生との連絡は携帯電話で行われるため必須。SIM カードのトップアップはコンビニで可能。

【寮について】

Lot77 という寮が City Campus の真後ろにあるため、アクセスの面で利便性は高い。一つの建物が男子寮と女子寮に分かれているため、要注意。設備としては、クーラーはなく、冷蔵庫もない(女子寮には冷蔵庫はある)。シャワーは冷水のみ。

Wifi は何とか繋がるが、遅いため忍耐を要する。ショッピングモールなどで契約しておくのが無難。コンビニ(セブンイレブン)が徒歩圏内なので重宝するが、お昼休みには一階にて軽食を販売しているためこちらも活用されたい。近くにプールや体育館もあり、一汗流すことも可能。

【観光・食事】

サラワク川、カルチュラル・ビレッジ、バコ国立公園、クロコダイルフาร์ม、その他マレーシアの諸都市を、休日を中心にめぐった。電車などの公共交通機関はなく、基本的には車で送ってもらわないと移動は厳しい。寮からサラワク川付近のクチン中心部までは徒

歩 45 分ほど。ちょうど雨季にあたるので、傘などは必携。しばしば洪水になり外出が制限されることも。映画については、多言語字幕がついているために、外国人のわれわれでも鑑賞可能。食文化が多様なので、毎食とても楽しい。学生にお願いできない時には 1 時間ほどの徒歩でもショッピングモールに行くことは可能で、フードコートのごはんにありつくことができる。

【金銭面】

補助を入れて 10 万円程度。物価は日本と比較して安い。

【日程表】

岸本奨学金の報告書に記載している。

【その他】

病院の見学などお願いすれば比較的实现しやすい。講義を通してクラスのメンバーと知り合えるので、放課後などご飯に誘ってもらえることが多かった。学生や医療者、教授陣とのコミュニケーションを楽しめる点で非常におすすめの留学生といえる。興味のある方は是非下記のメンバーまでご連絡ください。

(文責：大阪大学医学部医学科 6 年 谷田、松野、宮原、銭谷)